# 東京文化資源区構想 その意義とこれから

## 東京大学情報学環特任教授・東京文化資源会議事務局長

## 柳 与志夫様

**卓話者紹介　　八木　壮一会員**

柳様は国会図書館に永年勤務され、その後、千代田区へ出向。千代田図書館が新庁舎内に移転した時の一番の立役者で、新図書館はユニークな図書館として全国から注目されモデルケースになりました。国会図書館に戻られましたが、今は東京大学特任教授としてデジタルアーカイブについて研究され、東京文化資源構想にも尽力されています。

今の東京文化資源会議の活動は 10 プロジェクト、委員会は 5 つ、プロジェクトになる前のものが 2 つ、そして 3 区との協議会が 2 つできています。関連協力団体には、神保町未来会議に入って頂いています。
東京文化資源区構想の対象区は、台東区、千代田区、文京区です。3 区の特徴は江戸時代以来の文化資源が蓄積し、かつ、今も新しく生産されていることと、それぞれの地域がユニークな文化資源をもっています。ただ残念なのは、その良さが十分見出されていない、あるいは活用されていないので、新しい観点で浮かび上がらせたいと始まった企画です。3 区の中にある文化資源を見つけて、あるいは作り出す。そして、もう一つ重要なのは、それらを結びつけてみたら面白いものになるのではないかということです。

4 年前に有志が集まり始めました。ちょうどその時に東京オリンピックが決定しました。オリンピックには前のオリンピックが終わった時から当該開催都市に関わって4年間実施する文化プログラムがあります。東京オリンピック開催に因んで、東京の文化プログラムに関連して日本の文化資源を世界にアピールして行こう、その中心的地域がここであり、それをきっかけにグループができ、検討するための委員会を作りました。

その委員会で検討した結果「構想」を発表した訳です。それが 3 年前になります。そして、実現するためにできたのが、私の肩書にあります、「東京文化資源会議」という任意団体で、八木会長にも会員になって頂いていますが、産官学民の有志の結合体で組織を立ち上げました。この会議は、NPO でも役所の組織でも企業でもないユニークさがあり、良い方向で議論できていると思います。

東京文化資源会議では大きく 6 つのプログラムを作りました。事業系のプログラムが 3 つ、それを成り立たせるための基盤整備プログラムが 2 つ、更に、各地域の個性を活かした持続的な取組みの展開を企画・支援する、地域プログラムです。

プログラムを実現するためのプロジェクトを立ち上げています。例えば、「文化資源の発掘・再生・活用」のプログラムの中に、「湯島聖堂の活性化」のプロジェクトを立ち上げています。これは湯島聖堂だけではなく、神田明神、湯島天満宮、ニコライ堂の 4 施設を結んでみたら面白いのではないかということで始まりました。江戸時代から昭和まで日本の精神文化を作ってきた中心にある施設です。それぞれの施設にお声掛けし、周辺の大学の先生も加わり、去年 1 年間、議論をしてきました。これは画期的なことです。そして議論の後に、報告書、パンフレットを作成し、それを具体的にしようと、第 2 期のプログラムに入っています。第 3 期は、「湯島神田社寺会堂」プロジェクトとしましたが、寺が入っていないので、寛永寺さんに入っていただくことになりました。また、これから交渉しますが、カトリックがないので、神田カトリック教会の方にお会いする予定です。更に主要な宗教ではイスラム教がありません。御徒町にモスクがありますので代表の方に入って頂きます。

谷中には神田地域が抱えている課題と似ているものがあります。大きなビルがなく街並みが保存されている一方、相続の問題で古い家を維持できないなどの問題があります。その課題を解決して、町の人が楽しんで、来訪者も楽しめる街にするために「プロジェクトスクール@谷中」を立ち上げました。

TTT（東京トラムタウン）構想プロジェクトチームは路面電車を復活しようというチームで、結成し 2 年目半ばに入っています。商業文化の復活とトラムを一緒にしようと、高山さんにも貴重なご意見を頂いております。具体的なトラムについてトヨタ、ヤマハ発電機、日立などに話を聞きに行っています。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」では、東京オリンピックに因んで、新しい東京からの芸術文化を創出するため、企画公募をしています。最大 2 億円の補助なので、それに応募し、プラス自己資金と合わせ 3 億円で、試みに浅草、上野、東京駅を走らせてみようと話し合っています。

東京文化資源区文化プログラム推進協議会は、3 区が対象になっているので、3 区長には発足当初からお話を差し上げご理解を頂き、それぞれ決済頂いて設立した公式の組織です。また、文化面の観光にスポットをあてた地図を集め、一緒に見ることができるようにしようと、三区文化資源地図協議会を設立。公式な組織で 3 年目になり、分担金を頂き活動しています。その一環として、荒俣宏氏の小説で、都心の地層や地霊がテーマになっている「帝都物語」の世界観を介して「帝都物語地図カタログ」の制作を行っています。その制作にあたり、荒俣氏と神田明神で 6 月 11 日にトークセッションを行います。

基本的に統制ができていない、あるいはしようと思っていない活動です。しかし、つながりができ連携性が高まり、設立時の狙い通りの活動になっています。

そして、目指すものは、楽しい生活を送るためには、文化資源は教育や産業などの基盤だということを見直すことであり、それは東京オリンピックが終わってからの日本の新しい基盤になると思います。今の行政の在り方は耐用期限が過ぎています。新しい行政のスタイルは、NPO、企業、大学、役所の方々が一緒に活動していくスタイルだと思います。その中にはもちろん専門家の方にも入って頂く必要があります。そういう新しい行政スタイルを、当会議の活動を通して作り、日本の新しい行政文化を作っていければと思っています。

**閉会点鐘　　牛島　聡会長**

創 立/1993 年 10 月 13 日(平成 5 年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾒｿﾞﾝ九段 906 号
Tel：03-3288-7300 Fax：03-3288-7400
E-mail：ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
http://tokyo-orc.jp/

例会日 毎週水曜日　12:30～13:30
例会場 ホテルグランドパレス　Tel：03-3264-1111
会　長 牛島 聡　　幹　事 青木 隆幸
会　報 山下　秀一（委員長）山田　丈夫（副委員長 ）
土居岩生 木宮雅徳 小林大介 永井一史(委員)